



ミラノ

イタリア



# 「出会い、発見、夢、そして実現へ」

## 僕と音楽との出会い

僕は今、音楽、ファッション、アートの国、イタリアに住んでいます。なぜイタリアに来たのか…それは、夢を叶える為です。夢は「オペラ歌手」になる事です。

音楽との出会いは高校生の頃でした。高校へ入学し、吹奏楽部と合唱部に入部。そこで出会った音楽の先生が初めての「歌の師匠」になりました。師匠からの勧めで初めて出場した鳥取県高等学校音楽祭は、優勝者が県代表として全国大会に出場できるというものでした。ステージにはピアニストと僕の2人だけ。ピアニストは伴奏で、僕は歌うという今まで味わった事のない孤独感と不安でとても緊張したのを覚えています。そこで初めて歌った歌がイタリア古典歌曲(日本で言えば抒情歌)で全国大会への出場権を獲得しました。

## 本格的なレッスンの始まり

歌の世界の扉が開きました。楽譜を見て正確な音程感覚を身につけるとい基礎から勉強します。でも僕の口から出る音は、自分で歌っている音のはずが、違う音でした…(笑)

数ヶ月のレッスンを受け、むかえた全国大会。全国から選ばれた声楽を学ぶ人達が競う大会で、レベルの高いコンクールでした。出場したものの箸にも棒にもかからず悔しい思いをし、僕に芽生えたのは「来年もこの場所に帰ってくる」という気持ちでした。そこから少しずつ将来の目標が明確に見えてきました。ありがたい事に高校3年間全国大会へ出場させてもらえ、結果を残す事もできました。

夢を実現に近づける方法はないかと考え、大学進学を決めました。愛知県立芸術大学に進学し、そこで出会った師匠も僕の夢を大きく支える存在になりました。

## いざ夢の世界イタリアへ

大学時代の恩師は、イタリアで長年オペラ歌手として活躍し、ミラノのスカラ座をはじめ、名歌手達と共に各劇場で歌った方でした。

大学ではより専門的に学びました。ベルカント唱法というイタリアの伝統的歌唱技術です。マイクを使わず、呼吸、骨格と空間

の共鳴を使い、音を響かせます。

大学4年間は、ひたすら目の前にいる師匠と自分を信じて基礎の積み上げをしました。卒業前に進路というものを再び考え、進学が働きながら歌う仕事をもらうかとても悩みました。師匠に相談をすると、「イタリアに行ったらどうだい?今行って勉強できるのなら行った方が良い。今しか吸収できないのだから。」とってくださいったのを今でもはっきり覚えています。たくさん考え、イタリアへ渡る事を決めました。

## 夢を叶える為に

ミラノへ到着した翌日、さっそく街中心部へ。中心部にはドゥオーモというサンタ・マリアが生まれた教会が凛々しく建ち、日本と違い湿気が少なく、建物1つ1つに色があり街自体が芸術で、散歩していても飽きません。

僕は、イタリアにいる間に様々な街を訪ねて自分の感性の成長の為、積極的に外出するようにしています。目で見て肌で感じ、それが歌を表現する引き出しになっていきます。イタリア人はおしゃべりが大好き、食べるのも大好き、みんな愉快で親切です。

今はレッスンに通いながらコンクールやオーディションにも挑戦しています。ほんとに厳しい世界です。ですが、夢を叶えるために渡伊しました。自分を信じて、自分の納得のいく所まで挑戦し続けます。



▲ ミラノの街並み

椿さんは7月に一時帰国してコンサートを開催されます。

日時: 7月29日(日)

開場 13:30 開演 14:00

場所: ハワイアロホール

(東伯郡湯梨浜町はわい長瀬584)



NEW

財団で

# 「ボランティア」しています!

鳥取県国際交流財団では、国際交流ボランティア制度を設けています。このコーナーでは、各種ご登録いただいているボランティアの方に日ごろのご活動等について紹介していただきます。

第1回目は、「<sup>こやまつのり</sup>ホストファミリー」にご登録の小山哲儀さんです。

## ◆国際交流ボランティアへ登録しようと思ったきっかけは?

我が家が国際交流を始めたのは2000年です。長男が私の友人だった黒人の女の子を怖いと言ったことがきっかけでした。

私はその言葉を聞いたとき、大変ショックを受けました。幼い息子にしてみれば、初めて肌の色の違う人に会ったのですから、とても素直ですし当然の気持ちでしょう。しかし、世界には自分と違う身体的な特徴を持つさまざまな方がいらっしゃいますし、宗教を含め、自分の理解を超える心情の方もいらっしゃる。それを身近に感じ、当たり前のことにするためにはどうすればいいかを考えたとき、その解決方法が「我が家に招く」ということでした。



▲ 長男と友人(2000年)

## ◆活動の中で心に残ったこと、嬉しかったこと

実はホストファミリーであること、ゲストが来てくれることを家族全員が楽しく思えるようになったのは昨年です。我が子の4人がそれぞれ小学5年生になった時、本人が希望する国に連れて行くことにしたのですが、長女は私と我が家にゲストとして来た韓国の子の家を訪ねました。それが彼女にとって海外への扉を開ききっかけになったのです。そして数年後の昨年、高校生になった長女が運よく国際交流財団主催の米国バーモント州との交流事業に参加することが出来たことによって、なんだかようやく私たち夫婦の10年間の苦労も報われた気がしました。



▲ 小山さんと長女で韓国へ

## ◆国際交流ボランティアに関心がある方々へのメッセージ

受け入れる際、一番の心配は食事です。中でもビーガン(完全菜食主義)の方への対応は正直困りました。しかし、その後私自身もお肉を絶ち、今はビーガン料理も提供できるようになったので、言葉以外に困ることはほぼありません。自分がホームステイした場合、ホストにどんな対応をお願いしたいかだけを基準に、自分たちにできるこ

とを自然体とする、それが長続きのコツです。

今年は、次女と二人で彼女が希望する豪州へ、人気の獣医さんを訪ねてみようかと企てていますが、ゲスト全員に再び会いに行くことが家族共通の夢ですし、世界に友達が広がっていると考えるだけでとても幸せになります。

小山さん一家とバーモント州から来県した青年(2018年) ▶



JICAデスクより

## ジャイカ JICAボランティアを紹介します



2018年1月出発 門林 美笛さん

(派遣国ブラジル/米子市出身/高齢者介護)



このたび、ブラジルのパラナ州ロンドリーナ市にあるパラナ日伯文化連合会に派遣されることになりました。高齢化が進むパラナ州の日系社会において、州の各地にある老人クラブを巡回し、在宅介護講習会や健康体操などのプログラムの提供をおこなう予定です。

今まで特別養護老人ホームでの介護、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターでの相談支援を通じ、地域の高齢者福祉に携わってきました。この経験をブラジルでの活動に生かすことができればと思っています。また、日系社会での生活や地域の人たちとの関わりの中で、今後の日本の地域社会、地域福祉の在り方を考えるヒントが得られるのではないかと期待しています。

活動以外でも、スキューバダイビングやトレッキング、音楽が大好きなので、ブラジルの雄大な自然や音楽に触れることもとても楽しみです。

2018年1月帰国 齋藤 凱さん

(派遣国カンボジア/伯耆町出身/体育)



「ニャムバーイナウ?」これは「ごはんもう食べた?」という意味ですが、ことカンボジアでは人と会った時の挨拶としても日常的に使われています。そんな素敵な挨拶が飛び交う国で、私は体育&スポーツの先生として2年間活動しました。体育が授業内容に盛り込まれてから10年ほどしか経っておらず、ほとんど体育を知らない先生たちに対して、体育授業のサポートを行いました。2年間の活動を通して、来たばかりの頃とは比べ物にならないほど先生方の授業力が向上したことをうれしく思っています。

これからは日本での生活の中で、彼らを見習ってパワフルに生きていきたいと思っています。

## Introducing the New Head Office

The TPIEF Head Office relocated to the 3rd floor of the Tottori Kenritsu Shougai Gakushuu Center (Fureai Kaikan) on 1 April 2018. The office now enjoys a prime location near Tottori Station's south exit, and will help deepen our connection with local institutions to better serve you. We can now offer you language support and human resources training, as well as promoting cultural outreach in other regions, closer at hand than ever before. Come over and visit us!



▲Entrance to Fureai Kaikan



▲On the 3rd Floor



▲Reception Counter



▲Full of Japanese Study Materials & More

## Renewal Opening Ceremony

Ceremony and lectures marked the occasion of the Head Office relocation on Saturday, 7 April 2108. The event was attended by some 80 volunteers and others representing local institutions working with us on a daily basis.



## Lecture: Life in Tottori from a Foreigner's Perspective: Multicultural Symbiosis in Practice

Venue: Large Mtg. Room 3F, Fureai Kaikan

Lecturers: Fei Fei Kawaguchi (Taiwan; chair of the Sun-in Taiwanese Club & head of Nikka Friends multicultural learning center)

Remy Brissois (France; bread artisan)/Lin Zuzai (China; office employee)



### Fei Fei Kawaguchi

As a member of the working group for multicultural symbiosis network sponsored by TPIEF, I've come to grapple with the idea of the various difficulties faced by residents from overseas and how longtime residents can best aid those new to life in Japan. The group features residents from six different countries representing each region in the prefecture sharing their experience and exchanging ideas. For the past two years we have been discussing the utility of multicultural symbiosis, without overreliance on governing bodies or local people.

The language barrier faced by many non-Japanese in Japan also creates a psychological barrier. Words are fundamental. The

When I first came to Japan, the only thing I knew about was kimono. I didn't know how to use a floor toilet. My wife told me, 'Just persevere. With perseverance you can accomplish anything.' I had a lot of concern over my hearing impairment, but thanks to meeting my wife I got a good start with life in Japan. After that I got to meet someone who could teach me Japanese and Japanese sign language, and I commuted to a teacher's house every day. Then I met someone else who taught me Japanese grammar. It was these two people that truly gave me a start with living here. I studied Japanese for a year and a half.



### Lin Zuzai

I came to Japan when I was 15. I made it through my first year of middle school without knowing a word of Japanese. I couldn't follow 2nd-year classes at all. But I happened to discover a school that taught Japanese to students from overseas, and twice a week—starting with the five vowel sounds—I took lessons at that school for about a year. The teacher assigned a journal as homework, and corrected it for me every time. I filled up six notebooks over the course of that year, and I still have them. The teacher also took note of how much trouble I was having with communication, and contacted my homeroom teacher at school, who got my classmates to take turns writing the readings of

expression my senpai taught me at college was Hai, gambarimasu! This simple phrase got me through some things. There's also the need for residents to find work in order to settle in Tottori. There are some businesses in the prefecture that owe their success to the efforts of foreign labour, but it's difficult for someone to set one of these up.

This past January, TPIEF reached out to each section of the prefectural government to bring multicultural symbiosis managers from Shimane to form a committee for this purpose. For us, this was groundbreaking. I hope the administration will help make it easier for people from overseas to settle here. Let's affect a renewal of Tottori Prefecture itself! *Hai, gambarimasu!*

## Remy Brissois

When I got my Japanese driving license, the next day I got pulled over by a police officer. Apparently there was a sign on that road forbidding through traffic between 7 and 9 in the morning, but at the time I didn't understand what I had done wrong and wasn't able to get through to the policeman. After struggling for 15 or 20 minutes I managed to ask, and I understood why I was pulled over. I've had all sorts of experiences since then, but effort leads to results.

the kanji words in my textbooks. This way I could finally communicate with the other students.

There is also support for Japanese language learners in Tottori, and I hope it's as helpful for the youths now as it was for me. It's also essential that they be proactive in their own efforts, not just waiting for someone to help them. Japanese culture can be a bit out of reach when you come from overseas, but it's certainly a plus that the Japanese are so willing to help.

I still remember my Japanese language teacher's words to me even now: We're all earthlings. I hope that when meeting someone from overseas people won't think about what country the person is from, but that we will have a society that recognizes diversity.



## ■介绍新本所!

本所的事务所已经于平成30年4月1日迁移至鸟取市的鸟取县生涯学习センター(县民ふれあい会馆)3楼。全新面貌的事务所活用了鸟取车站南口的便利性,不只可以与关系机构有更密切的接触来应对大众需求,更有语言支援及人才育成、还走出事务所到您所在的地区去实施国际理解事业。我们将以更亲近社会大众的姿态呈现,欢迎各位多加利用!



▲县民ふれあい会馆 入口



▲3楼



▲柜台



▲有丰富的日语学习教材等图书

## 重新开所仪式

为了纪念本所迁移及重新开所,我们于平成30年4月7日(六)举行了开所仪式及演讲会。当天,大约有80位平常就非常照顾我们的关系机构及志工朋友们到场参与。



## ■「从外国人的角度来看鸟取的生活 ~实现多文化共生~」演讲会

会场 县民ふれあい会馆4楼 大研修室

演说者: 川口 斐斐さん(台湾出身、Sun-in台湾人会会长、多文化交流教室 日华ふれんず代表)

レミー ビリッツワさん(法国出身、面包师傅) / 林 祖財さん(中国出身、公司员工)



### 川口 斐斐さん

参加了财团主办的多元文化共生网会议,我们一直在讨论关于外国人生活在鸟取是如何克服种种困难,还有来日本多年的外国朋友要如何帮助刚来日本不久的外国朋友们等议题。我们召集了鸟取县内各个地区不同国籍的6位外国出身的朋友来分享自己的经验谈并在会议中彼此提出意见。我们不是完全只依赖着行政机关,也不光是只依赖着日本人,这两年来,我们一直都在讨论着,该如何让多元文化共生帮助到更多人。

外国人刚来日本时所遇到的「语言的隔阂」将会造成「心里的隔阂」。

所以,语言很重要!以前我在大学的时候从学长那里学到了一句话,叫做「好的!我会加油!!」。对于当时还不太会说日文的我而言,这句话真的很方便,好几次我都因为这句话而克服了困境。

另外,外国人如果要在鸟取县安定生活,工作也是一个必要的条件。在鸟取县内也有一些企业是需要靠我们外国人才能运作的。只是要实现这样的社会,很难只靠一个人就可以实现的。今年的一月,财团为了要和各单位相互提携合作,我们从岛根县邀请到多元文化共生经理来当我们的顾问,开办了一个推进会议。这个会议对我们而言真的是革命性的一大步。希望可以有一个让外国人安心的行政计划,让鸟取县也焕然一新吧!让我们一起加油努力!

刚来日本时,我只知道日本和服这个东西。就连和式厕所的使用方法都不清楚。当时,我妻子对我说「忍耐吧!只要忍过去,什么事都能顺畅了!」

我因为耳朵有障碍,因此心里有更多的不安,但是因为认识了我妻子,所以开始了我在日本的生活。在那之后也因为认识了某位朋友,他找我去他家每天教我日语及日本的手语。后来又遇见了另一位朋友,从他那里我学习到了日文文法。因为这两位朋友的帮助,我才感觉到我真的开始在日本生活了。我的日语学习生涯为期了一年半左右。

### レミー ビリッツワさん

记得我刚考到驾照的时候,在拿到驾照的隔一天我就被警察给拦下来了。原因是我开进了「上午7点~9点禁止通行」的区域。可是当时我根本不懂为什么,也无法和警察们沟通。结果就这样经过了15~20年,总算可以自己问警察,也终于了解当初为什么被拦下来的理由了。

诸如此类现在回想起来觉得可笑的经验累积,让我对自己下了一个结论想在这里与大家分享的就是「努力是会有结果的!」。



### 林 祖財さん

我刚来日本的时候才15岁。在完全不懂日文的情况下,我降了一个学年,从初中二年级开始进入日本的学校念书。一开始的时候完全跟不上上课的进度。刚好当时我住的地区有一个专门教外国出身的孩童日语的学校,所以我一周两次从五十音开始学习日语,大约学了一年左右。日语学校的老师总是要我以写日记来当家庭作业,而且每次都帮我修改。一年下来这些日记总共写了六本,我到现在都还好好地保存着。另外,当时的日语老师看我无法好好地与同学们沟通,于是透过班级导师让每个同学轮流帮我把教科书上的汉字写上读法。因为这样,我

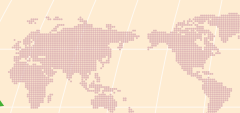
和同学之间终于也能有机会沟通聊天了。

鸟取县内也有教导外国籍儿童日语的支援,在日语指导的同时也请务必对他们做好心里辅导。另一方面,外国出身的朋友在有困难时,也千万别只是等着别人的帮助,自己主动找寻支援也是非常重要的。对于外国出身的朋友而言,有时候迟迟无法接受的日本文化,也有可能因为日本朋友从旁伸出援手进而可以理解并且接受它。

有一句话是我的日语学校的恩师说的,我至今仍然无法忘怀,他说「大家都是地球人」。当大家在和外国人接触交往时,请不要只是想着他是哪国人,而是希望可以成为一个彼此认同的多样性社会。

財団職員の

「ここが違って  
おもしろい!!」



うす だ  
**臼田 アン** (ベトナム出身)  
国際交流コーディネーター(ベトナム語)  
勤務日時: 月曜日 9:00~17:00  
勤務地: 倉吉事務所

2018年4月から国際交流コーディネーターとして勤務することになりました。ベトナムに関する相談を受けたりしています。お気軽にご相談ください。

さて、今回は私から見たベトナムの、ある光景を紹介させていただきます。

ベトナムでまず目に入るのが、まるで洪水のようなたくさんのバイクです！ベトナムには横断歩道がほとんどないため、歩行者は誰でも適当な

場所で道を渡ることになります。旅行者の皆さんにとって、最初はおっかなびっくりですね。でも大丈夫！バイクの速さは、ちょっと早い自転車程度です。歩行者を見かけると、バイクの方から歩行者をよけてくれますよ。そのため、旅行者の人も、数日経つと慣れて、スムーズに道を渡れるようになります。これは日本では見ることのできないベトナムならではの光景です！



今回の料理は  
**醉鶏 (ツイチー) (蒸し鶏の紹興酒漬)**



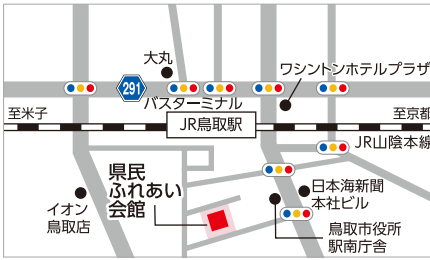
- 作り方**
- 調味料(A)を15分煮て、そのまま置き、冷めたら調味料(B)を加えて冷蔵庫に入れる。
  - 鶏ももに漬け材料を加え、手でしっかりと混ぜて30分ほど置く。
  - 下味が付いた鶏肉は、皮を外側にきつめに巻く。
  - アルミホイルで鶏肉を包んで両端をぐるぐる

- と絞り、20~30分蒸す。
- 5 蒸し上がった鶏肉はアルミホイルから取り出し、冷やした調味料に2~3時間浸してから冷蔵庫に入れて一日寝かせる。
- 6 1cmくらいのスライスにして汁を上からかけ、ココの実を盛り付ける。
- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| ◆材料               | ◆調味料(A)        |
| ・鶏もも肉 …… 2枚       | ・ナツメ …… 5個     |
| ◆漬け材料             | ・クコの実 …… 大さじ2  |
| ・青ネギ(包丁で漬す) …… 1本 | ・水 …… 300ml    |
| ・生姜(薄切り) …… 3枚    | ・鶏スープ …… 300ml |
| ・紹興酒 …… 大さじ2      | ◆調味料(B)        |
| ・塩 …… 小さじ1/2      | ・紹興酒 …… 300ml  |
|                   | ・塩 …… 小さじ2     |
|                   | ・砂糖 …… 小さじ1/2  |

**本所** Head Office / 本所

〒680-0846  
鳥取市扇町21番地 県民ふれあい会館3階  
TEL.(0857)51-1165 FAX.(0857)51-1175  
E-mail / tic@torisakyu.or.jp

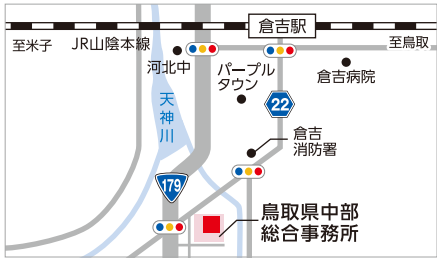
■利用時間  
平日 9:00~18:00 土・日 9:00~17:30  
祝日・年末年始はお休みです



**倉吉事務所** Kurayoshi Office / 倉吉事務所

〒682-0802  
倉吉市東巖城町2 鳥取県中部総合事務所別館  
TEL.(0858)23-5931 FAX.(0858)23-5932  
E-mail / tick@torisakyu.or.jp

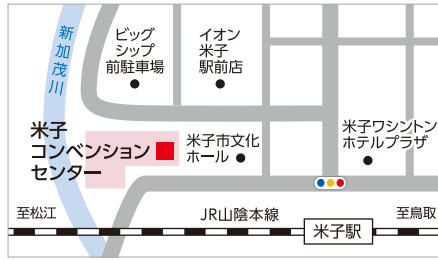
■利用時間  
平日 8:30~17:15 土・日・祝日・年末年始はお休みです  
※臨時に閉所する場合は、HPで随時お知らせします。



**米子事務所** Yonago Office / 米子事務所

〒683-0043  
米子市末広町294 米子コンベンションセンター1F  
TEL.(0859)34-5931 FAX.(0859)34-5955  
E-mail / ticy@torisakyu.or.jp

■利用時間  
平日・日 9:00~17:30  
土・祝日・年末年始はお休みです



配信中! 登録無料!

- 国際交流イベント情報メールマガジン「☆TIM☆」(日本語) 鳥取発!
- 携帯版多言語メールマガジン「TORIMO」(英語、中国語、タガログ語)



公益財団法人 鳥取県国際交流財団  
http://www.torisakyu.or.jp

